令和７年度釜石市市政懇談会会議録【質疑応答・概要】

日時　令和８年１月21日（水）18時30分～20時
場所　唐丹地区生活応援センター
参加者数　14人

■質疑応答

①　第六次釜石市総合計画後期基本計画について
【Ａさん】
　唐丹の具体的な説明がないですよね。小中学校の統合を検討していると思いますが、唐丹中学校の校舎はどのように活用する予定ですか。それがこれからの唐丹にとって大きいものになってきます。市長は冒頭のあいさつで後期３本柱と言いました。３本柱と唐丹中学校の校舎を結び付けられないか。今の学校はどのような問題を抱えているのか。不登校も増えています。学校になじめないこどもたちが通う施設が県内市内にありますか。急にはできないかもしれませんが、そういうこどもたちを集められないか。もう少しこれからのことを考えてほしいです。

＜教育部長＞
　昨年 9 月に計画を策定しまして、準備委員会を立ち上げて進めているところです。令和 11 年度唐丹中学校と釜石中学校の統合を予定しています。統合後の校舎ですが、先行して令和 9 年に栗林小学校や白山小学校の統合を予定していますので、校舎の利活用につきましては庁内の統合準備検討委員会を立ち上げ議論しているところです。校舎は防災拠点や地域の活動の場にもなっています。市全体の公共施設の利活用を今後どのようにしていくことが適正なのか検討しているところです。
　先ほどご提言がありましたとおり最近は不登校生徒が増えてきています。学校に行きづらいこどもの居場所は教育委員会として色々対応しているところです。貴重なご意見をいただきましたので検討委員会に反映させながら、公共施設の利活用の検討も議論して参りますので引き続きよろしくお願いします。

②　釜石市立地適正化計画について
【Ａさん】
　理屈ではわかります。唐丹は一体どうなってしまうのか。唐丹応援センターから保健師さんもいなくなりました。各地区生活応援センターは維持されるのでしょうか。これだけ見ていると唐丹は置いて行かれてしまうような気がします。具体的なものがないと実際どうなのかイメージが湧かないです。もう少し具体的に教えてください。

＜都市計画課長＞
　まず各地区生活応援センターですが、まだここでは全く明言できない状況です。公共交通は、資料の 8 ページにあるとおり計画を作る際には、一番上に第六次釜石市総合計画があって色々な上位計画があり、生活環境分野の計画ということで立地適正化計画や都市計画マスタープランがあり、この地域公共交通計画があります。これらとしっかり連動して今よりも改善できるような方法で取り組んでいきたいと考えています。具体的なイメージがないとなかなか議論ができないというのは、おっしゃるとおりだと思います。まさに計画策定のキックオフをしたばかりということで、これから皆さんと検討していくという段階でしたので、こういった形のイメージを釜石の中に当て込んでいく形で考えています。今後お示しできるようになればしっかりした説明の場を設けさせていただきたいと思っています。

【Ａさん】
　鵜住居だと体育館やスタジアムがありますが、平田とか唐丹は公共施設がありません。やり方によっては成功している自治体もあり、ある程度人口を増やしている都市も西の方にあります。全国から人が集まっているところもあります。その辺のやり方を工夫しながらお願いします。

＜都市計画課長＞
　貴重なご意見ありがとうございます。

③　その他
【Ｂさん】
　釜石市の強み、弱みは何ですか。これからもこのような強みを生かして頑張っていくというようなお話をいただきたいです。

＜総合政策課長＞
　後期基本計画を策定するに当たって掲げたのが 5 つの優先プロジェクトと人口減少対策です。その背景にあるのは冒頭の市長のあいさつにもあったとおり、外から来た人を受け入れている、その人たちとともにまちを発展させる力が釜石の強みだと思っています。日本全体で令和 6 年度は 80 万人の人口が減少しています。東北で言いますと仙台市に匹敵します。地方都市で人口減少に対抗していくのは難しい状況になっていますが、人口減少は悪ではなく引き続き外から寄せられる力やお金、プロジェクトを引き出しながら釜石は住みよいまちづくりを行っていくのが強みだと思います。今後釜石が生き抜いていくための大きな手段の 1 つだと思っています。弱みはその裏返しで、外の人の力を借りなければならないというところですが、そこは強みと置き換えて地域力の向上でカバーしていければと思って

います。

【Ｂさん】
　よく分かりません。人口が減っているのであれば歯止め策として釜石はこう考えているとお答えいただきたいです。そういった具体策も話されないで強みだと言われても何も生まれないと思います。

＜総合政策課長＞
　人口減少は悪ではありませんが、我々は決して人口減少対策を諦めているわけではありません。そのため、5 つの優先プロジェクトの他に人口減少対策を後期計画で設けています。人口減少対策の主な事業としては、若者応援事業と言いまして、若者が地域で活動して若者が外に出て行かないように引き留めるような事業を行い、移住定住を増やすことで釜石の人口減少に少しでも歯止めをかけられる市営住宅地域応援活用事業などの事業も展開しています。もともと釜石にいる若者を応援する事業であったり、住みよいまちをつくって外に出ていくことを阻止する事業もあったり、拡充して全庁的に取り組み人口減少に抗いながら釜石の強みを作っていければと思っています。

＜総務企画部長＞
　釜石は沿岸地域の中では、働く人が多いまちだとデータ上で分かっています。20 歳から 39 歳までの働き盛りの人口の割合が他の沿岸市町村と比べると抑えられているというデータがあります。あとは、昼間人口と夜間人口を比較すると、釜石は昼間人口が多いというデータがあり、働く場所が多いということが考えられます。昼間人口と夜間人口の率が高いのが、県内では金ヶ崎町です。次は矢巾町、その次が釜石市です。そういったことを踏まえると、この強みを伸ばしていくポテンシャルが釜石にはまだあると捉えています。その辺も今後の施策に重点を置いて取り組んでいくことも今後釜石が乗り切る 1 つの要素になっていくのではないかと思っています。
　あともう 1 つの釜石の強みは、市長が冒頭のあいさつで言いました交流人口です。大学生等がフィールドワークとして休みの時にゼミなどで釜石に来て、防災に関して体験したりして県内でもかなり優秀な方ではないかと思います。ワーケーションでは、釜石 DMC を中心に首都圏の企業が釜石に来て防災について学ぶことが非常に好評でして、年間約 1,000 人が来て、経済効果があります。

【Ｃさん】
　唐丹地区の主要な課題としてここに 5 項目書いてあり、その中に、水産業の振興、水揚げ量の減少、漁協組合の減少という課題があります。それに対する現実的、将来的な対策を具体的に説明願います。

＜産業振興部長＞

釜石は海に面していますので、水産業に関する課題は市内全体にあると捉えています。当然天然資源は減っていますし、漁業もこれからは育てる漁業を中心にした捕る漁業と育てる漁業を並行していくことが必要だと捉えています。一次産業は地域にとって非常に重要な産業だと捉えていますので持続的に産業を続けていく、企業経営をしていくことが重要だと捉えています。漁協さんや生産組合の方々の支援を行う他、捕った魚を次に回す加工屋さんにも支援をしていきます。様々な産業と連携して作り育てる産業という流れが世の中で求められていますので、水産業もそういった視点で取り組んでいく必要があると考えています。

【Ｄさん】

車避難について質問提言があります。津波避難は原則徒歩避難です。また、1 人で避難することが困難な高齢者や障がい者等は車避難を容認されています。要は、一般の人の車避難は容認されていません。昨年 12 月 8 日 23 時 15 分に青森県東方沖地震が発生し、津波警報が発令された際の、6 か所の本郷地区の避難情報です。元青年クラブ集会所広場には、徒歩避難者が 1 人、国道よしや前に車避難が 10 台、国道脇の広場には車避難が 30 台、車避難の避難者数は 1 台 3 人として約 120 人の方が避難しました。国道脇の広場の位置ですが、国道よしや前の交差点から釜石方面に約 600 メートル先、道路脇の広場です。広場の広さですが、1,800 平方メートルです。今回の車避難が多い理由の背景は、次の 3 点が考えられています。1 つは冬季の野外夜間避難です。寒さ対策がされていません。国道脇広場は本郷地区から比較的近い安全な高台にあります。毎年、地震津波訓練時に避難行動要支援者は車避難で訓練しています。次の 4 点を提言します。1 つは、従来通り避難は原則徒歩避難。2 つ目は、1 人で避難することが困難な高齢者、障がい者、避難行動要支援者は車避難。3 つ目は、地域ごとに車避難ルールがある地域は車避難を容認する。具体的なルールですが、まず交通事情を考慮した地域に適合した高台、車避難場所の設置、避難者の経路、通交制限ルールの制定、夏季・冬季ごとの車避難場所・経路の設定、交通整備場の配置、緊急避難場所の暑さ・寒さ対策の実施。市の見解をお願いします。

＜危機管理監＞

昨年は 7 月のカムチャツカ半島沖地震での津波警報がありました。それを含め、警報 2 回、注意報 2 回が発表されました。車避難についてですが、岩手県をはじめ沿岸市町村はほとんどが原則車避難です。その背景には、東日本大震災の時は大津波警報で信号機もほとんど滅灯していました。その状況の中で、警察等が避難誘導する状況でもなかったため車が逆走し右往左往していた状況がありましたので、徒歩避難原則としている現状だと思います。ただ、半島部等で混雑の見込みがないような地域完結の場所であれば車避難を否定するも

のではないと考えています。荒川町内会でも、下荒川にお住まいの方が上荒川の方まで国道45 号を交差するような形で車を使った避難であるとか。一方、箱崎白浜方面だと低地から地域の高台の方まで車で避難するという地域でルール化をしているところもあります。例えば、唐丹においても本郷や花露辺等では、浜で稼いでいたときに軽トラで高台に逃げるということ等、地域でルール化した地区計画の策定について市の方でお手伝いもさせてもらいながら考えていければと思っています。あとは陸前高田市や久慈市では車避難の取り組みを始めているところもあります。そういったところのお話も聞きながら釜石で取り入れられるところがあれば考えていきたいと思います。やはり夏場の暑さ、冬場の寒さに関しては本当に課題だと思っています。避難場所は市内に 86 か所あります。全てが屋外の高台です。大津波警報が発表されれば暑さや寒さに関係なく津波がきますので、まず高いところに避難することが第一だということはぶれずに考えなければいけません。その上で、避難所の暑さや寒さ対策など立地的な避難の仕方にも着手していかなければならないと思っています。色々な状況を踏まえて今後も考えていきますのでよろしくお願いします。

■市長総括

本日はありがとうございました。今日で 5 か所目ということで、様々な意見をいただきました。人口減少時代に対する皆さんのご指摘や不安が多いのだろうと改めて実感しました。2080 年には世界の人口が減少の時代に入っていくようです。国でも人口減少に対する取り組みを一生懸命やっているところですが、様々な要因があり日本の人口減少対策がうまくいっていない状況です。たしかに女性と男性の平等或いは教育の充実が開発途上国から先進国に行くにつれて結婚・第一子出産の年齢が高くなっています。日本でも結婚年齢は現在 30 歳です。10 年前は 29 歳、その 10 年前は 28 歳でした。10 年ごとに平均年齢が高くなっています。大学・大学院に行くにつれて当然結婚する年齢も高くなると思います。様々なマスコミの情報を見ますとショッキングな話もありまして、2080 年の世界の人口が減少に向かうとあります。このままいくと人類自体がレッドデータブックに載るのではないかという話もされています。このような状況の中でも、釜石は人口減少対策をやらなければならないのですが、住んでいる人たちは自信と誇りとプライドを持って生きていくと、そういったまちづくりをしていかなければいけないと思っています。釜石の人たちがやろうとしている面白い取り組み・素晴らしい人材が大勢いる中で、人口が減少している 1 点をとって釜石はダメだという見方は止めてほしいとマスコミに訴えさせていただきました。この前の限界集落大石の番組を拝見しました。見ていて本当に素晴らしいな、こういう素晴らしい人材が唐丹だと誇りを持って言いたいと思っています。ここに住まう我々がどんなまちを選ぶのか、どんなまちにしたいのかが印象よりも大事だと思っています。今後とも素晴らしいまちに必ずしていきたいと思っていますので、今後ともよろしくお願いします。